



JSCA 会長
和田章会長

先達の教えに敬意を払う

審査委員長も務める和田章東工大名誉教授は、構造設計者に対してそう戒める。その上で、「構造設計者は万能ではないからいろいろ

たちに敬意を払わなければならない」と強調し、「構造設計者は建築をつくる人たちに思いを馳せ、つくりやすく、安全で、人々に愛されるような建築となるよう努力しなければならない」と語った。

また近年の構造設計者の傾向として、「理論から離れ、デザイナーになっているように感じる」とも指摘。構造設計に必要な計算のほとんどをパソコンでできるようになった一方で「自分の使っている道具を理解せず、組み込まれた

ソフトをただ使っている」とし、頭脳を使い仕組みを理解して構造計算に取り組む必要があると述べる。

ただ、構造設計者がデザイナー的な思考を持つこと自体は「良い傾向にある」とも。国立代々木競技場の設計に際して建築家の丹下健三が構造を検討し、構造家の坪井善勝がデザインを考えていたように、「重要なのは良い建築のために協力することだ。構造設計者は建築家の言うことを聞くだけでなく、理論と実践の両方からよい建築づくりに向けて努力しなければならない」と語った。

時流奔流

な場面で施工会社の知恵や専門工事の技術者の経験を聞く必要がある。先達に学ぶことは恥ずかしいことではないが、教えてくれた人

「過去の蓄積なしにいまの技術を主張することはできない。すべてを構造設計者が考えたかのように語ってはいけない」。日本免震構造協会会長で日本建築構造技術者協会（JSCA）のJSCA賞